



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

平成29年
6月1日
第1号

新年度が始まり、早くも2ヶ月が過ぎようとしています。5月・6月は運動会や体育祭を実施する学校が多くあります。日頃の取組の成果をしっかりと発揮してほしいと思います。

さて、市教育委員会では、今年度も学校の魅力あふれる取組や関連情報を掲載した「市教委だより」を発行していきます。今年で3年目になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

奥 典道教育長より



今年度は、第2期廿日市市教育振興基本計画の2年目にあたります。本計画では、「『ふるさと廿日市』に愛着と誇りをもち、未来を担う人づくり」を基本理念として掲げています。今年度は「子どもたちが自ら進んで学ぶ教育」「子どもたちに寄り添い心を育てる教育」「教職員が育つ職場づくり」を3本柱としています。

昨年度末に新しい学習指導要領が告示され、「学びの変革全県展開」まで残り10ヶ月になるなど、学校教育が大きく変わることが求められています。子どもたちの主体的な学びの実現に向けて、学校の取組を支援していきます。

また、廿日市の子どもたち一人一人が「自分は人の役に立っている。」という思いを膨らませ、心が少し疲れたときには、側にいる先生や大人が「心配しなくていいんだよ。」と声をかけている環境が、廿日市のすべての学校に当たり前にあることを願っています。

教育的課題が深化し、「学び」が大きく変わることが求められている今日、職員自身が「学び続ける」主体であり続けなければいけません。「なりたい自分」をしっかり持ち、日々研鑽していくことが大切です。

課題の克服に向けた幅広い知識と柔軟な思考力を有し、自立した一人の人間として、力強く社会を生き抜いていく力を子どもたちに育てていきましょう。

子どもたちが自ら進んで学ぶ教育を進めます！



平成30年度は「学びの変革」全県展開の年です。今年のうち実践及び準備を行い、授業改善を進めていきましょう。

平成30年度の目標は？

○すべての先生が「課題発見・解決学習」を実践する。

- ・「課題発見・解決学習」の単元を年間指導計画に位置付けて、実践します。

○日頃の授業を「主体的な学び」にする。

今年度、どうすればよいの？

○すべての先生が「課題発見・解決学習」を実践するために…

- ・先進校の事例（広島県教育委員会 HP 掲載）などをもとに、自校の実態に合わせてアレンジした「課題発見・解決学習」の単元づくりを行い、まず「やって」みましょう。

○日頃の授業を「主体的な学び」にするために…

- ・導入、交流、個に応じた指導・支援などを工夫し、すべての子どもが参加する授業をつくりましょう。

★「主体的」「協働的」「深い」学びであったか、子どもの立場に立って全教職員で協議しましょう！

H29 廿日市市「学びの変革」推進協議会

- 第1回 6月29日（木）佐方小学校
授業研究及び校内研修のあり方の協議をします。
- 第2回 8月3日（木）大野市民センター等
終日実施予定の教務主任研修と午後から合同で実施します。
- 第3回 2月（予定）

Activity Assessment

2 主体的な学びの促進 課題発見・解決学習

七尾中学校は、平成28年度「学びの変革」パイロット校事業（※）の実践指定校として、すべての教科で課題発見・解決学習づくりに取り組んでいます。
どの教科でも、子どもが主体的に学び、考え、協働して課題を解決し、その力を実社会でも活用できるようにしています。

※「課題発見・解決学習」に関するカリキュラムなどを開発するために「学びの変革」を推進する機会を捉えることで、子どもの主体的な学びを促進する取り組み

【例】1年3組社会科の授業（歴史的分野 中世の日本）

授業中、先生は意図的にたくさんの「問い」を子どもたちに投げ掛けます。

グループで話し合いをすることで、考えを整理するとともに、互いの異なる考え方を学びます。

問題を示して自分の考えを発表します。

このような過程が、課題を発見し、解決できる力の習得につながります。

広報「はつかいち」（H29.4月号）※市のHPから見るすることができます。

子どもたちに寄り添い心を育てる教育を進めます！

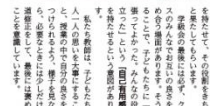
「つながり支援プロジェクト（自他のよさを認め合う人間関係づくり）」の取組も3年目になります。

これまでの取組で、「自分のよさは、周りの人から認められている」（「基礎・基本」定着状況調査児童生徒質問紙より）と回答する児童生徒の割合が2年間で小・中学校とも10%程度増えたり、授業や学校行事等で教職員から子どもへの肯定的評価が行われたりしているという成果が表れています。

今年度は、「貢献」「承認」「存在感」を意図した多様な「かわり」を多くの場面でつくり、児童生徒が安心して学べる学校づくりを進めましょう。



- すべての子どもが参加したくなる「授業」をつくりましょう
- すべての子どもに「居場所」と「子ども同士の絆」をつくりましょう。



5 | 広報「はつかいち」(H29.4月号)

Learning Innovation
3 お互いの良さを認め合い、自己有用感を育む
つながり支援プロジェクト

生徒指導主事として
活躍している「かわり」

「夏季一斉閉庁」を試行実施します

〇期間 平成29年8月14日（月）～8月16日（水）の3日間

例年、8月中旬のいわゆるお盆の期間は、学校への電話及び訪問者がほとんどありません。学校を閉庁することで、児童生徒及び教職員の夏季における健康増進と教職員の休暇等取得促進を図るとともに、省エネルギーを推進することを目的として、「夏季一斉閉庁」を試行実施します。この間、原則、児童生徒は登校せず、中学校の部活動も実施しません。※保護者の方へのお知らせは、近日中に学校から送付します。



生徒指導 スキルアップ！①

「割れ窓理論」

児童生徒も新しい学級に慣れ、自分らしさを発揮してくる頃です。

ところで、皆さんの学校における「つながり支援プロジェクト（自己有用感の育成）」の進捗状況は、いかがでしょうか？ 自己有用感を育成するためには3つのキーワード「貢献」「承認」「存在感」があり、そこに至るためには、その前提となる「安全・安心」が確保されていることが必要不可欠です。「安全・安心」の鍵となるのは、集団における**ルールの定着**です。そこで押さえてほしいのは…

**子どもたちのために、
小さな乱れの段階から本気で除去！**



スキルアップ ポイント！

この時期に「これくらいいいじゃないか。いずれ良くなるだろう」と、甘い期待のもと小さな乱れを放置すると、子どもたちは許されたと捉え、さらに乱れていきます。これを「割れ窓理論」といいます。ニューヨーク市で、軽犯罪を徹底的に取り締まった結果、犯罪が激減したという実話で有名になりました。

ルールを定着させるために、小さな乱れから組織的に丁寧に指導していきましょう。

今年もボランティアガイド、始めました

～宮島学園の取組～

5月25日（木）、宮島学園9年生（中学3年生）による宮島ボランティアガイドが実施されました。宮島学園では、9年間を通した生活科、総合的な学習の時間の取組の一つとして「地域遺産学習」を行っています。学んだことの出口活動が9年生によるボランティアガイドです。

大杓子や大鳥居、紅葉谷など数箇所のポイントで、2、3人が英語による案内をします。クイズを交えたり、観光協会が実施するイベントを紹介したりと、生徒は「おもてなし」を工夫しています。

この活動を通し、生徒はよりよく表現したいという意欲を持つとともに、地域への愛着がさらに深まっています。



9年生は、思い切って外国人観光客の方に声をかけました。すると、相手の方は気さくに应对してくれました。最後に写真を撮ることも「Of course!」と快く応じてくれました。

こんな情報が知りたい、学校の情報を掲載して欲しい等ありましたら、市教委までお知らせください。皆さんのニーズに合わせた情報発信をめざします。